

■平成29年度 第1回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成29年度 第1回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 平成29年6月1日(木) 13時30分から15時30分

[開催場所] 大和市役所本庁舎5階 研修室

[出席委員] 10名(欠席:2名)

[出席]: 饗庭 伸/宇津木 朋子/江村 郁子/河村 奨/黒石 いずみ/須賀 良二/菅 孝
能/星野 澄佳/松本 久美/山田 俊明

[欠席]: 杉崎 和久/仲村 邦弘

[事務局] 5名(街づくり計画部長、街づくり推進課長、街づくり推進担当3名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

I. 会議次第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 委員紹介
4. 会長及び会長職務代理の選出
5. 報告
 - (1)推進会議の役割について
 - (2)任期中の予定について
6. 議題
 - (1)平成29年度大和市街づくり賞について
 - (2)今後の大和市の街づくりについて
7. その他
8. 閉会

II. 内容

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 委員紹介
委員及び事務局員紹介
4. 会長及び会長職務代理の選出

大和市街づくり推進会議規則第4条の規定に基づき会長を互選
前年度に引き続き饗庭委員を推薦、全会一致で会長を饗庭伸委員に決定
会長より会長職務代理として、杉崎和久委員を指名

[会長あいさつ後、各委員より簡単な自己紹介]

5. 報告

- (1) 推進会議の役割について
- (2) 任期中の予定について
 - ・ パワーポイントを用いて事務局より説明

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

- 推進会議という名前がついているということは、市民協議会などが今後増えてほしいということがこの会議の基本姿勢なのか。
- ▼街づくり条例のガイドブックにもあるが、基本理念としては、住民発意による街づくりがスタートで、そこを市が各段階で支援するという考えがある。今現在どこかで具体的に特定の地域が問題を抱えていて組織を作ろうとしている状況は、今のところない。すぐに認定などに関して意見をいただくことはないかもしれないが、そのためにも、街づくり学校や街づくり賞などを通して、住民の意識を高め、地域の問題などを考えていただいたうえで、住民発意の街づくりにつなげていけたらと思っている。
- 街づくりの団体数の推移としてはどのような状況か。このフレームワーク自体が最近できたのだと思うが。
- ▼年次報告書に5ページから昨年度までの街づくり組織の一覧がある。すべてが街づくり条例に基づいたものではないが、それぞれ活動を行っている。
- このうちの5つが市民協議会ということか。
- ▼5ページ記載の地区街づくり準備会が、桜ヶ丘街づくり協議会と中央森林東側地区街づくり準備会である。
- つまり、このような組織が今後増えてほしいということか。
- ▼住民発意の街づくりについて話したように、これからは、やはり住民発意で取り組んだものに、市が支援をしていくという形になればよいので、そういう意味で住民主体の街づくりの組織は増えてほしい。
- その組織があったときに、街づくり協議会という形でお墨付きをつけようということか。
- ▼支援の内容も様々で、補助金のような形で活動の幅を広げるための支援方法もある。その街づくり組織の段階によって支援の方法も異なってくる。
- 組織の増加を望んでいるのかという質問に対し補足すると、近年増えていない。やや頭打ちの状態。街づくり学校やブランド発見などの啓発事業を開催しても湧き上がってくるところがあまりない。
△△委員はこの状況をどう思われるか。
- 街づくり学校を修了した人がたくさんいるが、必ずしも次のステップで街づくりをやるという雰囲気までは実態としてはなっていない。大和まちづくりの会という団体の活動もあるが、なかなか

そこから自分たちの地区に戻って街づくりをやっという市民の活動まで結びつかないというのが現状ではないか。街づくり組織の数としては今はこれが頂点だとは思いますが、さらにもう一つ増えるかと考えれば、厳しい現状だと思う。

○まだ街づくりそのもの、特にハードに関しては直接学校でやったことが活きているとは言いがたいが、自治会活動で広報をしていたり、活動の中でこんなに柔軟に皆さんのことをキャッチして、アウトプットも皆さんが見やすいように、プレゼンテーションをしたり、そういった素養が育ちつつある。もう少し何か支援や、その後の活動につなげていけるような何かがあったりすれば、そこまで行くかもしれないという感想がある。

6. 議題

(1)平成29年度大和市街づくり賞について

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

・事務局より説明

○この街づくり賞の今までの事例が、毎年それぞれいいところを見つけた良いもののリストになっているのに対し、職員の話を知っていると、美しい成功事例でなくても地域の人たちが頑張っているのなら、それをピックアップして応援しようという趣旨で、活動などを応援できれば良いというようなことが今年は望まれているのかと思ったのだがいかがか。街づくり賞の過去の受賞リストには人がいない。頑張っている人の様子を写すのもよいのではないか。

○18回のもを見ていただくと、手作り感があり、人の気配が感じられるものがある。

○そういったものをもっと取り上げると良いのではないか。

▼10年前までは街づくり賞は要領に基づいた形で開催していた。活動部門と事例部門の二つ部門がある。活動部門の中には、そういった取り組みに個人的な思いがある団体もあると思う。それは例えばテーマ型の取り組みなどに出てくると思う。そのようなところを捉えて表彰してもよいと思う。必ずしも景観的に美しいもののみを表彰するのではなく、そのような思いをくみ取って表彰することも考えていただければと思う。

○活動が良ければ、事例も良くなるのではないか。

○ここで一回褒めると活動をやめられなくなる。中途半端でもほめて、後に引けない状態を作るというのもよいのではないか。

○他薦も可能か。

○自薦他薦両方可能である。他薦が多い。

▼平成24年度以降を見てきているが、実際は活動がもっとたくさんあると思うが、これは街づくりか街づくりでないかという線引きが、応募する人にとってハードルが高いのではないかと考えている。実は応募してもらおうと良いというものがたくさんあるのではないかとと思う。こちらが線引きしているつもりはないが、応募したくなるような面白味が欠けているのだと思う。広報は頑張っ色々ところに発信しようとしているがそこには限界がある。どうしたらもっと応募してもらえるのかというアイデアが今出ない。そのハードルを下げていくと、もう少し応募数は増えるのではない

かと思っている。これまで、お願いをして出してもらっているものがあるのも現実であり、それがないと数が本当に少ない。それが隔年開催になった要因の一つでもある。これからもその点については、皆様の意見を聞きながら進めていきたいと思う。従来通りやってもなかなか応募の輪は広がらないと思う。なにか仕掛けを作らなければいけない。

○賛否両論あると思うが、縦長で色々な地域が、それぞれ頑張っているが、何か全体の強い、求心力のあるものがあると良い。そうしたものがあると人気が出るかもしれない。

○もう少し、選ばれた活動などを年次報告書などで大きく報告するとよいのでは。

▼社会教育活動や公民館活動など、もっと対象となるものはあると思われ、それを掘りおこすのが我々の活動かもしれない。しかし、街づくり条例にも決まりがあり、どのような基準で認定するかという少し上から目線的なところがある。そうではなくて、条例に基づかなくても良いから、良いものは表彰するというのが街づくり賞だと思っている。どのようなものが「街づくり」なのか、具体的な提示をしても良いのかもしれない。手を上げにくくしているのはこちらに何か原因があると思う。久しぶりの開催と言っても、たくさん何かが出てくるということはないと思うので、もっと呼びかけの仕方を考えなければならない。

○やはり街づくり条例が、どこか開発を前提に成り立っている感があるが、今はそういう時代ではなく、もっと皆が、生活の中で行う心地よい活動が、街づくり活動となっていると思う。大和市は郊外型の住宅都市である。だが、住宅だけで食べてはいけぬ。何かしらの経済活動を考えなければならない。例えば、逗子の古民家でのマーマレード作りを「街づくり」と捉えるように、そのような経済活動で新しいことを考えることも街づくりではないかと思う。

○具体的な文言は今後検討するとして「こういうことを紹介してください。」、「これが『街づくり』です。」という広報の仕方をする、ハードルが下がるのではないか。

○先ほどのご意見に賛成。市民の自発的な力に期待して街づくりをする以上、市民の力を発見・評価してあげることが大事だと思う。私も仕事でイベントの企画運営をしているが、イベントへのクレームはダイレクトかつビビッドに届く一方、ポジティブな意見は案外届きにくい。みんなが注目していること、応援していることを、活動している人に伝えてあげるのが大事だ。それが続ける力につながる。そういう意味で街づくり賞を続ける意義はあるのでは。

大げさでないささやかなもの、日々の生活の中で何気なく良いと思っているものを吸い上げられるような、広報、募集の仕方が必要なのではと思った。

▼貴重なご意見をありがとうございます。街づくり賞も最初の開催から20年が経っているが、受賞したところが20年経った後どうなっているのかを確認をしながら、より持続的な取り組みがされていけば、再度表彰することも良いと思う。今日色々なご意見をいただいたので、こちらで検討を重ね、次回提案をさせていただきたい。

(2) 今後の大和市の街づくりについて

質疑応答（○…委員 ▼…市）

- ・ 今後の大和市の街づくりについて、様々な視点でご意見をいただいた。
 - 前期の街づくり推進会議の最後に申し上げたが、大和の街づくりに、どのような問題があると思うのかをお話いただき共有したい。本日はアウトプットのみで構わないので、それを事務局が各視点としてまとめて、次回以降に議題としたい。お伺いしたいことは、大和が街づくりで取り組むべきことは何かということだ。
 - 市長もおっしゃっていたが、大和市は南北に長く、真ん中があるとおっしゃっていたが、勉強会をやっている思ったのが、中央林間に今度867世帯のマンションができるが、人口的には3000人くらい増えると思うし、若い人が入ってくると思う。一方、市の高齢者人口の比率を見ると、南の方の地区は高齢化率が非常に高い。大和市の同じ市民でありながら、年齢構成で見ると南北格差があるということを市民はあまり自覚していないのではないかと思う。大和市全体の視点で年齢的な意味での南北格差があるということを意識しないと、次にどのような街づくりをしていけばいいかという意識にもつながらないと思うので、それも他人事ではないということを意識して、ソフトな意味での街づくりをしていかないといけない。それが身近な問題として問題提起ができるといいと思った。
 - 人口構成がアンバランスではないかということによいか。
 - ましてや拡大していくのではないかということである。
 - ▼ 立地適正化計画を策定していて、おっしゃる通り北部と南部では人口構成は違い、こうしていきたいという目標はあるが、どうすればいいかということまではなかなか見つかっていない。計画に対してということだけではなく、議論いただければよい。
 - 都市計画上では準工業地域となっていて、軽微な工業地域を作っていく計画になっていたが、そこが工場では成り立たなくなり中央林間などのようにマンションになるご時世となったが、そうすると周辺からは、あそこに何ができるのかと不安な意見も出てくる。学校の問題や商業施設もなく成り立つのかななどの心配もある。大和市としての大きな方針も、立地適正化計画の中に織り込み済みなのか。大和市としてどういう街にしていくのかという意識を持ったほうが良いと思う。現在、中央林間駅周辺で進んでいる街づくりについて、市と市民の受け止め方に違いがあるような印象を受けているが、市の受け止め方を知りたい。
 - 大和市はある種の成熟都市だと思う。人口密度も8700人/km²弱で、市街化区域だけで割れば10000人を超えてかなりの集積がある。市街化区域と調整区域の比率と宅地系とオープンスペース系の比率がかなり割合的に近く、開発余地がほぼない。工場跡地を住宅にするといった、日本各地で行われていることをするしかない。そういった問題があり、それを抱えているのであれば、土地利用としては新規開発よりも既存市街地をどううまく再生していくか、その中で工場跡地のマンション開発をどの程度許容するのかなども考えなければいけないと思う。もっと身近な話ですと、より高齢化が進むと戸建て住宅は空き家になるが、うまくリノベーションをして地域の施設としてうまく使っていけば街づくり賞の候補にもなる。工場がなくなれば、市全体の産業経済ないし、市の経済

としてもどうなのか。また、女性が生産して販売するという小さな経済活動をどう起こすのかが一つの大きなテーマのような気がする。

街づくり年次報告書にあるように、調整区域の準備会も本当に良いのだろうかと思う。地元の方は頑張っているが、調整区域のある意味や価値、開発準備地という価値ではなくてもっと別の価値をみんなで探さないといけない。そういったことに取り組んでいることも街づくり賞の一つになるのではないか。そういう意味で成熟都市の次の段階をどう考えるかが大切だと思う。

- 自発性というキーワードが良く出ているが、旧図書館の計画がどの段階で動くのかはまだわからないが、あちらで活動の拠点を作っていく話を伺って、そこがもし具体的に回りだすなら、そこから芽は動くはずだ。こちらが何もしないと、そこで好きなことをやっているだけではあるが、その中で街づくりにつながることを、良いねと後押しをして、引っ張っていくことが必要である。そこまでのことをこの課がやるのは厳しいが、そういった誰かが集まる場所から、街づくりにつながる活動が見つかれば良い。

インプットとアウトプットに関して、色々な活動があってもなかなか外からは見えない。街づくり賞も例外ではないので、発信の方法も考える必要がある。

- GHQのディペンデントハウスに興味を持ち調べたが、大和が基地に密接していることは、ある種のネガティブな遺産に思われていると思うが、あれはとても貴重な日本の近代史の遺産で、しかもそういった事例は全国に散らばっている。そうした大和の歴史的なアイデンティティのようなものをポジティブに表現していくことはとても良いことだと思う。また、それと共にそういったものを持っている各地とネットワークを持ち、市が推奨していくと良い。日本全体がグローバルになってきているし、アメリカとの関係もプラスとマイナス両方あるのは当然だが、そういった中を生き抜いている人たちがいる。大和のアイデンティティをもっと明確に表現していくと良いのではないか。

- どういったアイデンティティを持つかは大切だが、ただ美しいものがあつたから表彰するだけでは意味がない。どういった意図をもってそうした美しいものが生まれたかに焦点を当てないといけない。大和市のアイデンティティとは何かは一番重要なことだが難しい。観光地なら観光の景観を壊さないための施策などを打ち出せるが、大和市がどうしていくべきかはまだ思いつかない。今後皆さんと共有していきたい。

街づくり賞の受賞事例の冊子があるが、賞の一覧は年度でしか見られない紙面になっている。それをグルーピングしていけば、こういったものが受賞しているのだというガイドが出てくると思う。例えば歴史的に街道沿いであったため、その結果として美しいもの、建物として美しいもの、活動の結果として美しいものなどがあるので、それらをグルーピングして吸い上げることなどが考えられるのではないか。

- 皆さまご意見ありがとうございます。

7. その他

- ・街づくり年次報告書について、印刷が完了したことを伝え配布をした。
- ・次回は7月下旬から8月上旬の開催を予定。

8. 閉会

以上